

第1回 武蔵野市市民活動促進基本計画（仮称）策定委員会 議事

平成23年5月18日（水） 19:00～21:00
武蔵野市役所西棟 8階 812会議室

1. 開会

(1) 委嘱状交付

(2) 市長挨拶

- ・本日は武蔵野市市民活動促進基本計画策定委員会にご出席いただきありがとうございます。1年間の委員会、どうぞよろしくお願い致します。
- ・武蔵野市では4年前に市民参加・市民協働を実現するためNPO活動促進基本計画を策定した。この間様々な市民参加・市民協働を進めてきたと実感している。現行計画が平成23年度までであり、本計画に続く新たな計画を検討する時期となった。5年間の計画の振り返り・評価とともに、これからの武蔵野市にふさわしい協働のあり方について広くご議論頂ければと思う。
- ・これまで、市役所内にも市民協働サロンを設置し、NPOの皆様運営頂いてきた。また、本年7月には武蔵野プレイスが開館する。その大きな機能の1つが市民活動支援であり、「ワークラウンジ」を設置し市民活動を支援していく予定である。これに伴い、今後、市民協働サロンの機能は武蔵野プレイスにシフトさせ、市民協働サロンは「協働」により特化していく予定である。市役所と武蔵野プレイスがうまく連携・機能分担しながら、市民活動推進支援につなげられると良い。
- ・本委員会ではこれまでの課題も踏まえながら、武蔵野市らしい協働のあり方、市民活動支援のあり方を基本計画として定めていきたいと考えている。また、平行して第5期基本構想長期計画の策定も行っており、今年度中に策定を予定している。こちらとの整合性をもたせながら、市民活動支援については本基本計画の内容を長期計画に反映させていきたい。
- ・市民参加・市民協働の目指すところは「市民自治」である。この実現にむけて、短期間で集中した議論となるが、是非ご協力をお願いしたい。

(3) 委員自己紹介

■菅原委員

- ・地方自治・地方財政を専門としている。若い頃には、武蔵野市の市民参加や市民活動を対象として研究活動を行ったこともあり、当時は電算化が課題となっていた。活発に活動を続ける市民と市役所の関係を長らく見守ってきた経緯もあり、今回お手伝いさせて頂ける機会があることを非常に嬉しく思っている。どうぞよろしくお願い致します。

■西山委員

（ご都合によりご欠席）

■今村委員

- ・武蔵野市社会福祉協議会（以下「社協」）から派遣されているが、現在は主に「武蔵野地域猫の会」に携わっている。これまで長らく武蔵野市の市民活動に携わってきた経験を活かし、少しでもお役に立てればと思う。どうぞよろしくお願い致します。

■田中委員

- ・よろしくお願い致します。本日は「武蔵野市 NPO・市民活動ネットワーク」として出席させて頂いている。当団体は市民協働サロンの運営委託を受けた団体として、今後さらに協働を高めるための団体活動を展開していきたいと考えている。
- ・このほか、個人的にはボランティアガイド 18 ページに掲載されている「武蔵野の森を育てる会」で団体活動に従事している。市の緑化環境センターと関係があり、活動を通じて協働を実現していきたいと考えている。
- ・日本女子大学の教育学科に所属し、生涯学習論を専門としている。なかでも NPO や市民活動と学習との関係について関心がある。どうぞよろしくお願い致します。

■坂口委員

- ・「日本 NPO センター」事務局次長として参加させて頂いている。当団体は NPO の基盤整備、企業・行政との協働を進めることを目的として 1996 年に設置された団体である。現在、当団体では事務職員の大半を被災地に派遣しており、企業のボランティア希望者を募り派遣するコーディネートを実施している。
- ・日本 NPO センターに来て 3 年目で、それ以前は「国際協力 NGO シャプラニール」という団体に 17 年ほど所属していた。また、日本ボランティアコーディネーター協会にも所属している。
- ・個人的には、市民の立場で地域をどのように良くしていくかに長年従事してきた。私自身は西東京市民であり、保護者として、学童保育の連絡協議会に 12 年ほど携わっている。これをきっかけとして設立された NPO（6 つの学童保育と 1 つの児童館を委託運営）の活動にも従事している。このほか、西東京市で市民参加条例を制定した際に策定委員を務めた経験もある。また、一昨年前には市民協働推進センターの運営委員も務めている。近隣市の市民として武蔵野市の団体とは関係があるので、お役に立てればと思っている。どうぞよろしくお願い致します。

■笹野委員

- ・もともとは技術系でコンプライアンス関係の業務に従事していたが、退職し自宅で業務を行っている。何か地域のために役立てないかということで、桜堤コミュニティ協議会の会長を務めることとなった。地域のために何かをしたいという気持ちは強くあり、地域の高齢化と子どもたちの居場所づくりについて問題意識を持っている。
- ・今回の震災でも課題となった単身者や高齢者の孤立を防ぐため、地域社協やコミュニティセンター等による地域のゆるやかなネットワークづくりに加え、一歩踏み込んだ協働の仕組みづくりができるとうれしいと考えている。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■野崎委員

- ・武蔵野市に住んで 34 年になる。以来、何かしらの市民活動に従事してきた。当初は国際交流の立場で武蔵野市国際交流協会に設立当初から参加し、笹野委員とも面識がある。

バブル崩壊以後、外国人配偶者を伴って帰国する人が増え、こうした外国人市民が増えるなかで、武蔵野市国際交流協会での活動は「いかに共生するか」という観点での活動に変化していった。また、「武蔵野スカーレット」の活動にも従事しており、女性親善使節団の派遣を通じ、アジアとの関わりについて考える等、その他多数の団体活動にも関与してきた。

- ・こうした団体での活動経験から、個別の団体活動が蛸壺化していると感じており、個別の団体活動をネットワーク化することの重要性を感じている。市民団体は閉鎖的になりやすく、自己完結しがちであるため、団体活動がネットワーク化され、連携が進めば団体の持つ役割もより広がるだろうと考えている。よろしくお願ひ致します。

■前田委員

- ・3月まで教育委員会に所属し、武蔵野プレイス開設準備室長を務めていた。4月からは公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団に派遣されている。武蔵野プレイスは、図書館機能、生涯学習機能、青少年活動支援、市民活動支援の4つの機能を併せ持つ施設であり、これらを指定管理者である事業団が一体的に運営する従来にない新たなタイプの公共施設である。
- ・現在は武蔵野プレイス館長として、市民活動支援の拠点施設として求められる役割等を具体化する作業を進めている。行政の立場としてではなく、現場の実務責任者として他機関と連携しつつ、新計画をどのように実践していくかについて考えていきたい。どうぞよろしくお願ひ致します。

(4) 事務局紹介

(武蔵野市挨拶)

(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(以下MURCと表記)挨拶)

(5) 正副委員長選出

■前田委員

- ・委員長として菅原委員、副委員長として田中委員をご推薦したいがいかがでしょうか。

■事務局

- ・前田委員のご意見にご異議はありますでしょうか。

(異議なし)

- ・ご異議が無いようですので、ご多忙の折大変恐れ入りますが、菅原委員に委員長を、田中委員に副委員長をお引き受け頂きたく、よろしくお願ひ致します。
- ・以降の進行については、委員長にお願ひ致します。

2. 議事

(1) 委員会運営要領(案)について

■菅原委員長

- ・本委員会の運営にあたり、「資料3 武蔵野市市民活動促進基本計画(仮称)策定委員会運営要領(案)」の内容について検討する必要がある。まずは事務局から資料3についてご説明頂きたい。

(事務局 資料 3「武蔵野市市民活動促進基本計画(仮称)策定委員会運営要領案」の説明)

■菅原委員長

- ・主に委員会の公開、傍聴の可否、議事録(発言者)の公開の3点についてご検討頂きたい。

■笹野委員

- ・但し書き部分の「会議の進行を行うもの」が指す内容は何か。読み方によっては、外部者であるようにも読める。

■事務局

- ・ここでは委員長、委員長不在の場合には副委員長を指している。
- ・資料2に委員会設置要項をお示ししており、第5条に委員長の任務として、「委員長が委員会を代表し、会議を総括する」と規定している。基本的には委員長が委員と協議して決定するという内容であり、外部者が介在することはない。

■菅原委員長

- ・解釈に問題なければその他の点についてご意見頂きたい。

■坂口委員

- ・議事録の公開方法はどのようなものが想定されているのか。公開請求に応じて公開されるのか、ウェブサイト等で公開されるのか。

■事務局

- ・市のウェブサイト内に委員会のページを立ち上げ、そのなかで議事録を公開する予定である。

■笹野委員

- ・前回の策定委員会の議事録では委員名は記載されていなかったと思う。

■事務局

- ・ご指摘の通り前回委員会では委員名は記載されていなかった。またその他の委員会でも委員長・副委員長のみ公開し、その他は委員A、委員Bといった記載形式のものもある。しかし、どのような文脈でのご発言かわかりづらく、また本委員会は市民活動のための委員会でもあるので、委員の皆様のお名前を明示したうえで、ご発言内容を記載し、原則公開としたいがどうだろうか。

■笹野委員

- ・名前が公表されるとなると、整理して正しく伝わるような配慮が必要となる。
- ・また、議事録を事前に確認できないとやや不安を覚える。

■事務局

- ・議事要旨での公開を想定しており、また公表前に事前に委員の皆様にご発言内容をご確認頂く時間を取り、そのうえで公開したいと考えている。

■菅原委員長

- ・委員会のなかでも議事録確認を行う等、闊達な検討ができるような運営に配慮したい。運営要領について、異議等はあるか。

(異議なし)

■菅原委員長

- ・本策定委員会の運営要領は資料3の案の通り定めたい。

(2) これまでの取り組みについて

(事務局 資料4「武蔵野市における市民活動促進に関わる取組みの現状について」の説明)

■菅原委員長

- ・現行計画の概要と評価、武蔵野プレイスの新たな事業について触れて頂いた。ご質問・ご意見があればお願いしたい。

■田中副委員長

- ・5ページ「図表5 協働事業数一覧表」について、「協働」の定義を明確にし、定義に則った場合にどこまでが協働といえるかの精査が必要である。当初は「協働」の概念が浸透しておらず、委託等の関係があれば「協働」として広く捉えていくという考え方があったが、あらためて見てみると「委託」などがすべて「協働」に該当するわけではない。また、行政と市民の間でも、また武蔵野市の各部署間でも、「協働」の捉え方に違いがある。本委員会で詳細に検討する内容かどうかはわからないが、いずれかの段階では市民と行政の間で「協働」の共通認識を構築するとともに、市民活動の目標となるような位置付けとして、「協働」の概念をブラッシュアップしていくことも重要である。

■事務局

- ・ご指摘の通り、行政も市民団体も独自に解釈しているところがあり、本委員会において共通認識を構築し、発信していくことが重要と考えている。
- ・また、「協働」の概念についても、市と市民活動という狭いものに限定せず、市民活動相互の協働や企業との協働等も視野に入れ、本委員会の中でイメージを固め、発信していきたい。

■坂口委員

- ・西東京市の市民協働推進センターにおいても、同様の議論がなされている。「委託」が「協働」に該当するかについては、市民協働推進センターでは、施策の中身や施策に従事する行政職員側の意識として「協働」が念頭に置かれているかが重要であるという議論になっている。
- ・武蔵野市では実施済みかもしれないが、「協働」についての職員意識調査等があれば活用してはどうだろうか。

■事務局

- ・職員の意識調査は実施していない。協働の実態調査を行うなかでも、武蔵野市市民協働ハンドブックを作成する作業のなかでも、「協働」が今後の行政運営にあたり極めて大きな重要な位置を占めているという認識は職員側にもあると感じている。ただし、協働の中身の認識については必ずしも一致しておらず、そうした現状をおしなべて把握はできていない状況である。

■笹野委員

- ・現行計画の検討委員会では、市役所職員にNPOについての意見を聞くヒアリングを実施しており、その中で「NPOが受け皿になりきれしていない」「人材が不足している」とい

った意見がみられた。NPOは組織的には脆弱で、人材の質も熱意もばらつきがあり、協働の受け皿となることを一義的に求められる対象ではないと考えている。

- ・「協働」のあり方を考えるにあたっては、NPO個別の得手を活用し、不得手を行政が補完しながら、「行政対NPO」といった対立構図にならない「協働」のあり方をともに模索できると良い。
- ・NPOには常時人がいるという状態ではなく、人の入れ替わりや出入りが激しい。そうしたNPOのデリケートな部分を踏まえ、たうえで、「協働」のあり方について定義していくことが重要であると考えている。

■野崎委員

- ・行政と市民活動団体の協働に限定していえば、資料では「補助・助成」も「協働」として捉えられているが、「補助・助成」を通じて「協働」しているという認識は市民側にはないだろう。
- ・行政と市民が「協働」について対話する際にも、市民側が要望を強く出し、行政職員がそれを受け入れる等、良い関係で対話できていない様子が見受けられる。より良い協働を実現していくためには、市民側も積極的に「協働」のあり方について考えなければならぬと感じている。
- ・また、行政も「協働」によって何を推進したいのかを明確にしつつ、行政と市民がざっくばらんに話し合う場を設け、行政と市民の関係を改善していくことが重要だろう。

■今村委員

- ・社協のボランティアセンターでは、「何かをしたい」という漠然とした動機を持つ市民に対して、ボランティア育成講座を開講し、ボランティアの定義に始まり、一から市民に目的意識を持ってボランティアに取り組んでもらえるよう育成活動を行っている。そうしたステップを経てはじめて、どのような団体でボランティアをするかといった方向性が出てくる。
- ・「協働」について市民がどこまで理解しているかという議論があったが、同様に市民に「協働」を理解してもらうためには、相当な段階を踏んでいかなければ難しいという印象を受ける。

■前田委員

- ・田中副委員長のご指摘にもあったが、協働件数が増加している背景には、「委託」や「補助・助成」が入っていることが大きいだろう。「補助・助成」は、本来、自主的な活動に対し行政が支援をしているというだけで、実体上は「協働」ではないものも含まれている。
- ・したがって、件数の増減で判断するのではなく、協働の質で判断することが重要である。

■菅原委員長

- ・特に論点を絞らずご議論頂いたが、今後どのような形で議論し計画に反映していくかについてもご意見があればご指摘頂きたい。

■坂口委員

- ・本委員会の焦点は市民活動促進である。「協働」はその一部で、目的ではなく手段であり、あまり「協働」に引張られすぎない方が良いように思う。
- ・「協働」という場合には、二者の間に媒介されるべきは「金」ではなく、「解決すべき

課題」が置かれるべきである。課題に対して、双方が対話をして両者の意識をすりあわせ、連携・協働の必要があれば取り組むといった認識を、行政側も市民側も持つことが重要である。

■事務局

- ・現行計画は、名称は「NPO 活動促進基本計画」であるものの、内容的には NPO をはじめとした市民活動を対象とし、協働・活動促進を目的としている。しかし、名称に引っぱられ限定された計画というイメージを市民にも行政職員にも与えていると認識している。
- ・坂口委員のご指摘のとおり、焦点は市民活動促進に絞り、市民が求めるサービスニーズを満たすため、ひいては武蔵野市をより良くするために、活動促進基本計画を策定していきたいと考えている。そうしたことを念頭にご議論頂けると良いと思う。
- ・ただし、先ほどの資料説明のとおり、何らかの数値的成果を求められると資料 4 のようなアウトプットとなってしまう。また、結果としての数字であれば良いが、数字を出すことが目的化してしまっているケースもある。数値達成が目的ではないことが職員にも伝わるような計画にできると良い。

■笹野委員

- ・活動の促進・活性とよく言われるが、何をもって「活性化」とするかは難しい問題である。数値軸での評価しかないので、先ほどの事務局からのご指摘となっているのだろう。個人的には、活性化の原動力となり、組織や活動を動かすものは人のつながりであると常々感じている。
- ・良い仕組みがあっても、それを動かすことに人々の意識が向かわなければうまく稼働しない。同様に、「協働」も参画する主体の意識に大きく左右される。コミュニティづくりの自主三原則（自主参加、自主企画、自主運営）も、何に対する自主性であるかが明確にされていないために、行政に対する自主性が前面に出すぎており、自主性を他団体に対する閉鎖性と捉えている団体もあるため、共通の目的に対して連携が阻害される場合が多い。このように促進の弊害となるものが何であるかに着目しなければ、「協働」の推進は難しいと考えている。
- ・先日、地域における一体的な活動事例として、静岡県三島市で活動する「グランドワーク三島」を視察したが、「川をきれいにする」という目的が市民のみならず企業も巻き込み、雇用を生み出すような大きな流れとなっている。
- ・こうした事例を踏まえると、「協働」は単純に行政と市民団体との協働としてだけではなく、団体間の「協働」として捉え、団体の活動目的別に緩やかなネットワークを形成することにより、より大きな流れにしていくことが重要である。

■野崎委員

- ・私自身が活動するなかでも、「協働」という概念は特に念頭に置かず活動してきた。その中で、閉鎖的に自己完結するタイプの団体が多いという印象があり、そうした団体では、閉鎖的であるがゆえに活動メンバーの高齢化と活動の継続性が課題となっている。活動目的の拡がりや活動の活性化のためにも、他団体とのつながりは促進すべきだと思う。
- ・また、積極的に他団体との連携・協働を推進するためには、コーディネーターのような

存在がいると良いのではないだろうか。

■坂口委員

- ・笹野委員、野崎委員のご意見は非常に重要である。暗黙知となっているが、地域独自の市民活動意識・文化は存在している。武蔵野市の市民活動の特性として、閉鎖的、自立的といったことが指摘されているが、ネットワーク社会の中でそれを開いていくことが重要になると考えている。
- ・行政計画であるので、アウトプットとして施策・事業が並ぶものになることは想定しているが、その中に市民意識や市民風土・文化といった記述を盛り込んでいけると良い。

■前田委員

- ・武蔵野プレイスでは、組織的にしっかりした団体というよりは、むしろ市民グループ等の組織だっていない団体の利用を想定している。理想はプレイスの職員がコーディネーターとなり、そうした団体の新たな活動の展開可能性についての情報を提供するといったことができるのと良いと考えている。

■今村委員

- ・団体相互の情報交換のため、市民協働サロンには各団体の情報を入れるためのメールボックスがあるが、どの程度有効利用が来ているか。また、市民協働サロンの利用状況はどのようになっているのか。また、武蔵野プレイスに引き継がれるのであれば、市民協働サロンはどのようなかたちで継続されるのか。

■事務局

- ・市民協働サロンにある作業スペースは武蔵野プレイスに移行する予定であるが、市民協働サロンそのものは無くならない。市と協働を進めるうえでの相談窓口として位置づけるとともに、また協働を進めるための講座等は開講していく予定である。

■前田委員

- ・市民活動団体を武蔵野プレイスで育て、市民協働サロンで協働を推進していくことになる。

■田中副委員長

- ・さきほど坂口委員からあったご指摘について、はじめに「協働」ありきということではなく、まずは市民活動の促進があって、その発展型のひとつが「協働」であるというご指摘は非常に重要である。
- ・市民活動促進の中身は、資料2の第1条にあるように「対等な立場でのパートナーシップ」が前提となっている。一方、現行計画の第5章のタイトルは「NPO・市民活動の促進に向けて」であるが、中身は「協働」である。「協働」に力点を置くのか、坂口委員のご指摘通り、まずは市民活動の促進に力点を置き、その発展型として「協働」を位置付けるのかについては、本委員会の目的に関わる重要な部分であるため、第2回委員会で議論をした方が良い。

■事務局

- ・田中副委員長のご指摘は議論の核心に関わるご指摘であると考えている。現行計画を引き継ぐ継続計画という性質上、どうしても縛られてしまう側面はあるが、本委員会については、それにとらわれず自由にご議論頂ければと考えている。方法としての「協働」はありうるが、基本的には市民活動をどのように促進していくかが重要であると考えて

いる。

■菅原委員長

- ・この計画が何を目的にしているのか、「協働」をどのようにどのような場面で扱うのかといった内容については、計画に織り込む際に重要な視点となる。議事要旨はその点を押さえて頂き、この議論から出発するというを全員で共有したい。
- ・進め方としては、現行計画を単純に引き継ぐだけではなく、委員の自主性を発揮できる部分があるようである。

(3) 計画策定の流れについて

■菅原委員長

- ・引き続き、策定スケジュール等について、事務局より資料 10 のご説明を頂きたい。

(事務局 資料 10「武蔵野市市民活動促進基本計画（仮称）の策定概要」の説明)

■田中副委員長

- ・3 ページ、「①調査目的等」の 3 行目に「自立」や「協働」という言葉があるが、先程来の議論から「自立」が閉鎖性や他団体との競争等につながっているケースも考えられる。こうしたことを踏まえると「自立」だけではなく「ネットワーク」や「他団体との連携」といった観点を追加してはどうか。
- ・また、4 ページ、「図表 6 調査項目」内か、1 つの柱として「他団体のネットワーク」を追加して記載すると先ほどからの議論が生きるのではないだろうか。

■坂口委員

- ・田中副委員長ご指摘の点と一部重複するが、調査において団体間のネットワークが横にどう広がるかといった観点は必要であると感じた。
- ・市民活動を促進するうえでは行政側の支援を受けることを前提にすると、あえて協働しないという団体が除外されてしまうことになる。
- ・一方、良い成果が期待できるのはグループインタビューである。この際、どういった団体に聞くのか、誰に聞くのか、団体抽出をどのように行うかについては、成果に大きく関わるところであるので、抽出方法についてはよくご議論頂ければと思う。また、資料ベースの単なる事実確認ではなく、ファシリテーションの要素を入れる等、相手に主体的に話してもらうような促しをすることが重要である。

■菅原委員長

- ・進め方や調査方法については、本日一部ご議論頂いたが、委員各自、気づいた点は気づいた時点で全員で共有する形式とし、相対していないときにも少しずつ事が進んでいくようにしたい。そのため、ご意見は遠慮無く事務局にお伝え頂くこと、意見をペーパーにして提出するといったことを奨励しながら議論を進めていけると良いだろう。
- ・急ぎで必要な指摘としてはグループインタビュー実施時の視点等についても、一部委員会内で既に意見が出たが、引き続き実施前までに適宜ご意見をやり取りしながら進めていきたい。

■坂口委員

- ・武蔵野市においては、市民ワークショップを実施するといった意見はこれまでにでなかったのだろうか。西東京市では委員が出した叩き台を市民と議論する場を要求されるケースが多かったがどうだろうか。

■事務局

- ・そうした仕掛けも必要であると考えているが、一般的なワークショップの手法では、頻繁に足を運んでよく意見を述べる人の意見だけが反映されがちで、その他の意見を取りこぼしてしまう傾向がある。そのため、こうした問題を解決する方法について委員の皆様からは是非ご教示頂きたい。
- ・市民の声を幅広く聞くことは重要であると考えているため、ワークショップについては検討したい。
- ・また先ほど、菅原委員長から委員の皆様で意見を共有しながら進めるというお話があったが、情報共有等についても委員全員へのメール配信等に対応していければ良いと思う。

■野崎委員

- ・西東京市のワークショップはうまく機能しているのか。
- ・武蔵野プレイスのワークショップに参加したが、うまく進行しているようには思えなかった。

■坂口委員

- ・毎回ワークショップの参加者が同じ顔触れであったり、批判的意見ばかりが出る等、必ずしも成功するとは限らないが、市民の注目を集めるということ、ある程度の意見収集が可能になるという利点はある。いずれにしても、成果が出るか否かはファシリテーターの力量によるところが大きい。
- ・例えば、笹野委員のご協力を得てコミセン協議会に行って話を聞く等、単純な公募型ワークショップではなく、新計画の広報も兼ねた世論形成につながるようなものができるのではないかと考えている。
- ・また、ワークショップは行政がファシリテーターをすると、市民が意見を述べる場になってしまいがちである。実施する場合には、委員がファシリテートした方が良い。

■笹野委員

- ・坂口委員のご指摘のとおり良いファシリテーター無くしては、良い意見は抽出できない。ファシリテートの技能は特殊な能力ではなく、優秀な人間に限定されるものでもないため、一般的な市民のなかからファシリテーターを育てていくということも重要である。

■田中副委員長

- ・ワークショップを開催するのであれば、プロのファシリテーターを呼び、刺激を受けるようなものにすることが参加者の活動意欲を高めるうえでは非常に重要である。
- ・また、前回委員会でもワークショップを実施したようであるので、今回も何らかの形で実施すると良いのではないか。

■菅原委員長

- ・本日の議論では、計画の目指す目的については継続して議論すること、「協働」に限定するのではなく広めに考えていくことが合意された。
- ・また、計画策定プロセスにも積極的に委員が関わることを確認された。引き続き、調査

方法についても積極的にご意見を頂きより良いものにしていこうと考えている。

- ・委員の皆様方はNPO関係者、コミュニティ活動従事者、ボランティア活動従事者、公益財団法人等多様な方が集まっているので、皆様の英知を結集して、引き続き検討したい。

■事務局

- ・次回委員会では、グループインタビュー・アンケートの実施が主である。一部ご予約をお伺いしていない委員もいらっしゃるが、団体構成員の都合上、土日も含めて日程調整を行う必要があると考えている。お手元の日程調整表に土日の予定も含めてご記入頂き、再度事務局で取りまとめて調整したい。この場でご予約が判明しない場合には、後ほどメールにてお送り頂きたい。
- ・グループインタビューについては20団体程度を想定しているが、2回程度に分けて開催し、委員全員が揃わない場合でも、複数回開催するうちのいずれかに出席頂くことやメール等で情報共有ができれば良いと考えている。

■菅原委員長

- ・本日はお忙しい中、また長時間にわたりご議論頂きありがとうございました。

以上